

経営比較分析表（令和2年度決算）

大阪府美南市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	I 訓	救 臨 地 輪
人口 (人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
138,890	34,067	非該当	非該当	7 : 1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

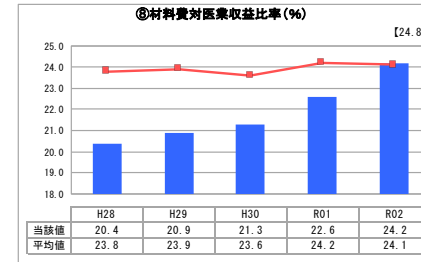
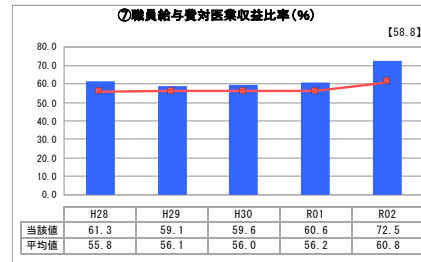
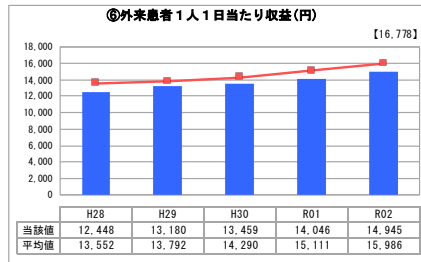
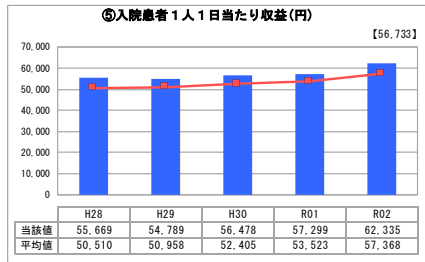
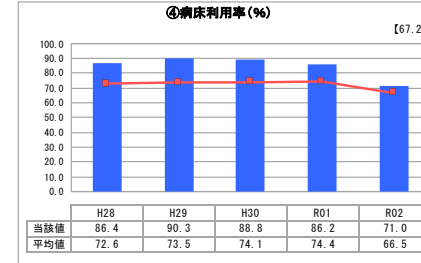
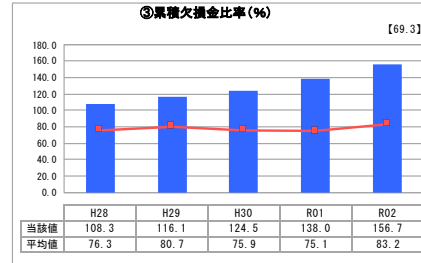
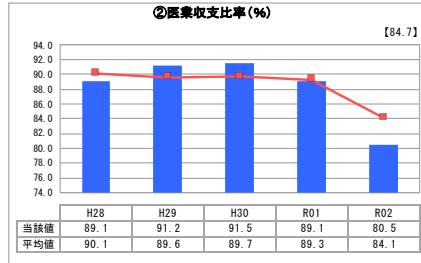
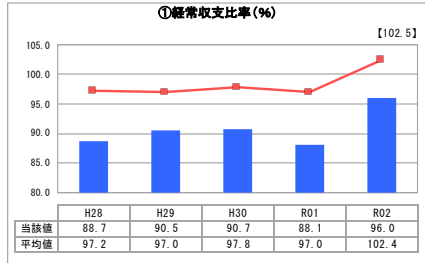
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
317	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	317
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
317	-	317

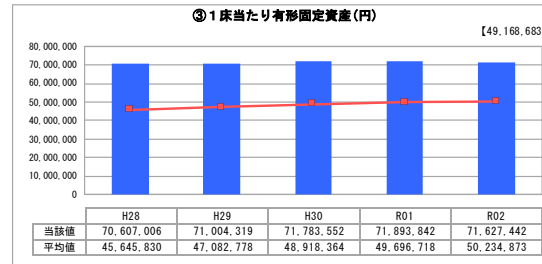
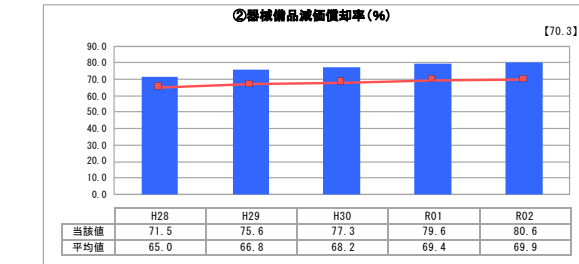
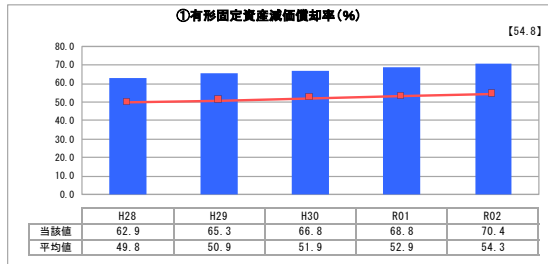
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

連携・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

地域医療支援病院として、かかりつけ医との紹介・逆紹介を推進するとともに、市内で唯一の二次救急医療機関として救急医療の提供や、地域の医療従事者に対する研修の実施等により地域全体の医療レベルの向上に努めている。

また、大阪府がん診療拠点病院として、国指定の拠点病院と連携し、5大がんを中心とした治療水準の向上や、緩和ケアの充実、患者・家族等に対する相談支援を行い、地域でのがん医療の充実に努めている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似病院平均値を下回り、医療収支比率については新型コロナウイルスの影響が大きい令和2年度を除き、類似病院平均値と同程度である。これは、当院が繰入金に依存しない運営を行っているからである。

病床利用率、入院患者1人1日当たり収益、材料費対医療収益比率は類似病院平均値よりも良好な値を示している。

外来患者1人1日当たり収益が類似病院平均値を下回っているのは、当院がすべて院外処方箋を発行しているためと思われる。

2. 老朽化の状況について

建設から39年が経過していることから、有形固定資産減価償却率、機械備品減価償却率とも類似病院平均値を上回っており、老朽化が進んでいる。1床当たり有形固定資産が類似病院平均値を上回っているのは、平成8年にリハビリテーション棟を増築した際に、リハビリテーション室や研究室など比較的余裕のある施設配置をしたことによるためである。

全体総括

平成28年に病床利用率の低下、経常収支比率も大幅な赤字を計上した。このため、平成29年に従来の改革プランを見直し、平成30年に再度目標数値の見直しを行い、経営改革に取り組んできた。令和元年度には外部機関による経営分析により、注力すべき診療科ごとの疾患群の洗い出し等を行い、新規患者の獲得とあわせて多方面からの収益改善に向けて取り組んでいるが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による受診控え等もあり、医療収益は大きく減少、国や府からの補助金の活用や市からの繰入金を行ったものの、単年度収支は赤字となり、抜本的な収支改善に至っていない。地域に必要とされる医療機能、質を確保しつつ、持続可能な病院運営を継続するため、引き続き収支改善に取り組む。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。